

図書だより



種子島中央高校図書館

早めの梅雨入りで、すっきりしないお天気が続く今日この頃、皆さんいかがお過ごしですか？
なんとなく気分が晴れない日もあるかもしれませんが、そんな時こそ、図書館で本を探してみませんか。新しい知識、共感できる言葉、まだ見ぬ世界への冒険…。あなたの「今読みたい一冊」が、
きっと見つかるはずです。



～図書委員会より～

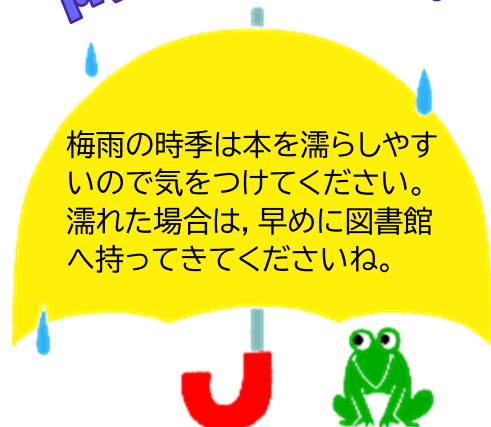
今年度の年間目標が決まりました。

- ◎2週間に1回は図書館に行くよう呼びかける。
- ◎朝読書の呼びかけをする。
- ◎本が好きになってもらえるよう、また、本を読む習慣がつくよう委員会活動を頑張る。

みなさんの読書が充実するよう活動していきますので、よろしくお願いします。

雨にご注意！

梅雨の時期は本を濡らしやすいので気をつけてください。
濡れた場合は、早めに図書館へ持ってきてくださいね。



おすすめ！爽やかな読後感の青春小説

梅雨空の下でも、心が晴れやかになるような青春小説はいかがですか？ きっと読み終えた後には前向きな気持ちになれるはずです。



一秒に全てをかける！
『一瞬の風になれ』

佐藤多佳子(講談社)

中学までサッカー少年だった神谷新二は、高校から陸上に転向。短距離走を通じて、仲間たちと切磋琢磨しながら成長していく姿を描く青春スポーツ小説。友情、努力、挫折、そして一瞬の勝負にかける想いが熱く描かれています。

音が、想いが、響き合う。
『響け！ ユーフォニアム』

北宇治高校吹奏楽部へようこそ』
武田綾乃(宝島社)

高校進学を機に、吹奏楽から距離を置こうとしていた久美子。しかし、進学後に思いがけず吹奏楽部に入部し、全国大会を目指すことに…。個性豊かな仲間たちとともに奮闘する姿を描いた青春群像劇です。



太宰を読もう～6月19日は桜桃忌(おうとうき)～

太宰の誕生日でもあり、入水自殺を遂げた彼の遺体が発見された日でもある
6月19日は、晩年の短編小説「桜桃」にちなんで「桜桃忌」と名付けられました。

桜桃って
さくらんぼの
ことだよ。

だざいおさむ

太宰治(1909.6.19～1948.6.13)

本名は津島修治、青森県の裕福な家に生まれた小説家です。芥川龍之介に憧れ文学に傾倒し、私生活では薬物中毒に陥り女性と心中を繰り返すなど小説顔負けの波瀾万丈な人生を送りました。そして1948年、38歳のときに入水自殺しその生涯を終えました。

そんな彼の作品には、人間の弱さや苦悩が独特の美しい文章で描かれています。読めばきっと10代の皆さんの心に寄り添い、共鳴する言葉が見つかるはずです。



『人間失格』

主人公の大庭葉蔵が、自己嫌悪と孤独に苦しむ姿を日記形式で描いた私小説的要素が強い作品。彼の墮落と絶望が赤裸々に綴られていて、高校生にも共感しやすい一方、重いテーマも含んでいます。太宰の代表作であり、一度は読んでおきたい文学作品です。

『斜陽』

戦後の混乱期を背景に、没落していく貴族の女性・かず子が新しい生き方を模索し葛藤する姿を描いた物語。タイトルの「斜陽」は「沈みゆく太陽」のことです。変化する時代の中で、人々が何を失い、何を見出していくのでしょうか。

『走れメロス』

言わずと知れた友情・信頼がテーマの物語。メロスが友人の命を救うため、懸命に王の元へ走る姿を描いています。太宰の明るい側面が感じられる作品で、読みやすく心を打つ名作です。

『桜桃』

子を持つ父親が自分の不甲斐なさを痛感しながらも、家庭や子育てについて語る作品。太宰の自虐的ユーモアと子どもたちへの深い愛情が感じられます。

『トカトントン』

無気力な青年と謎の音「トカトントン」との関係を描く不思議な物語。何となく生きづらさを抱えている人に強く刺さる一作。

「日常の生活に直接役に立たないやうな勉強こそ、将来、君たちの人格を完成させるのだ。(略)学問なんて、覚えると同時に忘れてしまってもいいものなんだ。けれども、全部忘れてしまっても、その勉強の訓練のそこに一つかみの砂金が残つてゐるものだ。これだ。これが貴いのだ。勉強しなければいかん。」

『正義と微笑』より抜粋



『正義と微笑』に登場する英語教師黒田先生のセリフの一部です。勉強の本質とその重要性を登場人物を通して述べています。

